

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり (西ユニット)		
所在地	愛知県津島市葉苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2392700023-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、ボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

13名が正社員、1名のパートタイマー職も常勤と潤沢な職員配置を誇り、また14名中7名が男子で男女比もバランスよく配されています。お月見やドウ狩りを模した季節の壁画が連なり、玄関から始まりリビングに至るまでクラフト作品満載の中、特に毎月のように催されるイベントを撮影した写真コーナーには目を奪われます。餅つき、恵方巻き、お花見弁当、カラオケ、めくもり喫茶、年賀状や暑中お見舞い制作、お芋パーティー、たこ焼き、蕎麦打ち、うどん打ちとお楽しみ行事は枚挙にいとまがありません。掃出しからウッドデッキづくりに畑で土いじりもでき、奥に進むとフェンス越しに法人託児所の子どもたちとのふれあいもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念だけではなく各ユニットでの目標をあげて実践できるよう努めていきたい。	法人理念はありますが事業所理念は「形だけつくるのはどうなのか？」との管理者の考えもあってつくってはいません。それでもユニットリーダーのリーダーシップの下、一つにまとまっていて過不足なく日々の業務が推進されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアや、近所にある幼稚園へ訪問し発表会を見学させていただいたりしていたが、現在はコロナウイルスの影響で行わずに日常の散歩で近所の方とあいさつをする程度である。	自治会には加盟しておらず、地域の情報は運営推進会議に参加する民生委員から入る程度です。それでも福祐寺の説法会や花祭り、中学生の職業体験、七夕会への園訪問などの交流がコロナ禍前にはありましたが、現在すべて中止となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方を通じて認知症に関する理解を深めて頂いていたが、コロナウイルスの感染予防のため現在は行われていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見や案は現場のサービス向上に向け生かしていけるよう努めている。	民生委員をはじめ、母体から栄養士・看護師、福祐寺住職と多彩な顔ぶれをメンバーとして隔月開催してきましたが、コロナ対応として4月は活動報告を津島市に提出、6月は市役所、地域包括支援センターのみ出席してもらった縮小会議、再び8月は4月と同じ方法をとっています。	次の2点の検討を期待します。①運営推進会議の案内に出欠連絡票を添付して欠席理由書の代替とする ②(家族参加を望んでいることから)議事録を家族に届ける
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当と、運営会議以外にも行き来する機会をつくり市とともにサービスの向上に取り組んでいきたい。	津島市高齢介護課には運営推進会議の案内や入退去があったときに出向いています。運営推進会議には市役所並びに地域包括支援センターの出席が得られ、また「つながろまい津島」を通じたネット配信でリアルタイムに情報が入っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を通して、スタッフが拘束について理解しており定期的な情報共有を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は各ユニットから其々メンバーを輩出し、3ヶ月に1回の定期開催があります。あせったりすると、不用意にスピーチロク的な言葉が出てしまうこともあります。総じて皆穏やかで利用者にかかわっていて、管理者は「安心」としています。	身体拘束廃止未実施減算に係る書面はこの機会にあらためて整備し、研修記録とともに1つのファイルに集約できると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士が意見交換し合いながら虐待のないケアに努めている。 一人でのケアが大変な時は応援を呼ぶなどしてストレスをため込まないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会がなく今後、学ぶ機会を増やして行けるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に管理者が対応し利用者を含め家族と話し合いをし理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望などは可能な限り対応し運営に反映できるように努めている。	面会は「2、3日に1回」という家族がいる一方で、遠方に住むため「なかなか無理」という場合もあって差がありますが、クリスマス会を家族会と併催して家族とゲームで楽しむ日も設けています。直接言われたことも、また家族アンケートにもクレームめいたものはなく、円満です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや連絡ノートを使用して様々な情報が共有できており、定期的なミーティングを行い意見などを交換している。日常から職員同士のコミュニケーションを行い意見が反映しやすい、風通しのよい職場環境を作りを行うように努めている。	朝礼や夕礼の申し送りを取りやめ、ユニットごとの申し送りノートを配し、記録を徹底させています。全体ミーティングは不定期ですが、ユニット会議は毎月1回実施しています。介護中心の職員意見は、「利用者の生活のしやすさ＝円滑な業務」に実って、一挙両得につながっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士の意見交換もつねに行っており、介護における意識の向上、レベルアップにつなげている。 気持ちよく、やりがいを持って働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、研修は一時中止している。 職員一人一人に役割をつけ責任感、達成感が持てるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流があまりないのでお互いに学び合える機会を増やしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族からの情報提供と本人様からの要望を聞き、入居後不安なく過ごしていただけるように努めている。不安な所があればその都度話し合いにより対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に入居後も本人の意思を考慮し家族からの要望などを聞き、話し合いを行っている。必要に応じて連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からの状況確認と職員間での話し合いをし必要と思われるサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事等をしてお互いが助け合う気持ちで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態を説明して家族の話聞き利用者にとって何が大切なのか一緒に考え、家族と少しでも過ごせるように話せる場をつくる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ感染予防の為に面会を制限している為に馴染みの人と交流は難しい状態である。	春には敷地内の桜の花の下でお弁当を食べ、夏が近づくと暑中お見舞いの葉書きを書き、秋にはお芋パーティー、年末が近づくと年賀状を出すといった時節毎の取組みが常に傍らにあり、利用者を主役に職員と一緒に笑顔の中で推進されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを通して利用者同士が関わるようにしている。コミュニケーションをとることが難しい方は職員が間に入り関わりを持つように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞き出来る限り希望や意見に添うようにしている。また、スタッフ間で情報を共有し希望や意向を把握するようにしている。	生活歴や本人との会話を通じて意向を把握しており、特にレクリエーションや行事が頻回にあることから、刺激を通じて利用者の言葉が増えていることが視えます。訪問時にも「こっちで一緒に話しましょう」と、職員の誘いに微笑みながら歩み寄り利用者の姿を視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用から話を聞きこれまでの生活歴を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや生活記録、申し送りノートを活用したり、職員同士の話し合いにより状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを使った情報共有と定期的なミーティングを開き意見交換している。介護計画作成時に本人様や家族様の意見も取り入れ現状の状況に即していけるよう努めている。	コロナ禍で2表の担当者欄に介護職員以外を入れることができないのは残念ですが、計画作成担当者並びに介護支援専門員は「個別性」に注視した作成を努めており、「ケアプラン実行表」「ケアプラン評価」「モニタリング評価」の各シートを適切に運用しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の生活を記録し、何かの気づきや問題などがあれば申し送りノートに記入をし情報を共有している。定期的にミーティングを行いケアプランを見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の要望、スタッフの意見を取り入れ臨機応変な対応をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染予防の為、現状は実践できないが今後落ち着けば実践していきたい。 以前は地域のボランティアの方に訪問して頂いたり、近所の幼稚園に訪問したり喫茶店へ行くなどしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回、職員と定期的を受診をして家族からの要望があれば医師に伝えている。状態に変化があれば受診をし家族に連絡している。	現在入居の17名は協力医である母体病院に変更しています。専門医の付き添いは家族にお願いしていますが、車輻や本人のADLの状態に因っては管理者が代わって通院介助をおこなっています。看護師は非常勤で週1回訪れ、医療連携加算をとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し利用者の身体状態を見てもらっている。 定期的な訪問以外にも気になる事があれば看護師に相談し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や主治医と連絡を取り合い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見て医師や看護師、家族、職員間で話し合い対応している。	看取り実績はあるも、ここ数年の取組みはありません。母体病院と同じ敷地内にありますが、担当医が当直とも限らないため、夜間何かあれば救急車をお願いする手はずとなっています。看取りへの考えは家族によって異なるとともに気持ちの変化もあるため、都度相談としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の実践力は職員によってばらつきがあり、全スタッフが対応が出来るよう研修を行い実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練や災害マニュアルを作成し対応ができるように努めている。 今後、地域との連携も行っていきたい。	年2回、火災想定で避難誘導のメニューを隣りの託児所と同じ日におこない、託児所へは火の発生を電話で一報しています。夜間想定も2回の内1回は実施のこととし、通報訓練はなるべく全員が体験できるよう配慮していますが、消火器操作はエアードレスです。	水消火器を消防署に借りて、実際に取り扱うことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り、利用者様の性格など把握し利用者様に応じて声掛けの仕方を変えるように努めている。	職員との関係によって「～ちゃん」づけとなることもありますが、利用者本人が悦ぶケースもなくはなく、管理者としては「頻回でない」「尊厳を侵害していない」を許容範囲としています。トイレの扉の奥にカーテンを後付した例もあり、羞恥心を護ることは速やかに是正しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を伝えやすい雰囲気を作り、個々に合わせた対応に心掛け意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで調理や掃除などをしてもらい、普段の生活リズムを気にかけようとしている。入浴もなるべく意向に沿って入浴して頂いている。 職員側のペースにならないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしてもらったり、ご自分で選べる方にはその日の服装を選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備など出来る利用者にはスタッフと一緒にして頂き、時には本人に任せ見守りの中対応している。 朝食はパン等好みのものを提供している。 利用者に合わせて食事形態や食器など工夫をしている。	母体の管理栄養士がつくった献立に基づき食材が届き、各ユニットで職員が手作りしています。お誕生会はこれまでは外食でしたが、コロナ禍対応でテイクアウトに替わっています。食事時のBGMはその時々でかけたり、かけなかったりですが基本テレビは消すことにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューを提供し利用者の状態によって食べやすい形態に調理している。 十分に食事を摂取できない方には補助食を取り入れたり、小まめに水分を提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや、夜間の義歯の消毒を行っている。 口腔ケアは毎食後うながしている 一人で不安がある方にはスタッフが確認し一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき個々の排泄パターンを把握して声掛け誘導を行い可能な限りトイレでの排泄に努めている。	車いすが2台は入れそうな広いトイレが設置され、清々使用できそうですが、「立位がとれにくい人」「抵抗が強い人」が数名ずつおり、職員2名でトイレ介助をおこなう事が増えてきています。パットではなく女性用ナプキンを使う人もいて、その人の尿量によって随時検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、牛乳やバナナをだしている。水補給や乳飲料をとって頂いたり、体操や散歩などで体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ一日おきのペースで入浴されている。希望で夜間入浴されている方もみえる。拒否する方は無理強いはずらず状況を見てタイミングに合わせたケアをしている。	「1日おきを目標」としていますが、湯の入れ替えを一人毎にするユニット、かけ流しのユニットと、湯の用意にはユニットそれぞれの独自性があります。職員がうたう歌につられて声を出す利用者もいますが、大半は職員とのおしゃべりを楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もご本人の状況に合わせて居室で休息をとって頂いたり、リビングでもくつろぐことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の詳細は生活記録に保管しているのでいつでも確認ができる。すべての薬の把握は出来ないが薬に変更があったときは特に変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来る範囲で調理・洗濯・掃除などで役割を持って一緒に行ったり、工作や編み物、カラオケなど好きな事に取り組むよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナウイルス感染予防の為外出は行っていない。以前は地域の喫茶店やお店に買い物、家族様との外出を行っていた。	過去には名古屋港水族館や東山動物園などにも出掛けていましたが、3月あたりから自粛となり、散歩がメインとなっています。掃出しからウッドデッキづたいに畑で土いじりもでき、奥に進むとフェンス越しに法人託児所の子どもたちとのふれあいもあります。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている 職員が利用者の好みのものを買って届けている。 トラブル防止の為、現金は持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族と連絡を取ることが出来る。 携帯電話を使い家族と連絡を取っている方もおられる。 年賀状や暑中見舞いも送られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう飾りつけや皆で作った掲示物や写真などを飾っている。 天井飾りや壁面などに季節に合わせたイラスト等を飾り楽しく生活できるようにしている。	コロナでなくても感染症の時期には消毒拭きを増やして衛生に気遣っています。コロナ禍となつてからは午前1回、午後1回の換気と、消毒拭きの回数を増やしていますが、家族の面会はオープンとしていて、調査訪問時にも家族がレクリエーションを見学していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごされてくつろげるようソファがあり、車椅子の方も介助でソファに座っていただいている。 気の合う利用者様同士席を近くしたり心掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用をしたり、くつろぎやすいような環境の整備や利用者の状況に合わせた部屋のレイアウトをしている。	収納スペースはなく、利用者は個々に暮らしやすいようにチェストなどを持ち込み、他にも鏡台、テレビ、携帯が置かれた部屋もあります。転倒防止のために大きめの筆筒を基軸に本人がつたい歩きできるように模様替えすることもあり、安全面に注視しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は安全に配慮しながら、ベッドや家具を使用しやすい位置に配置している。 車椅子でも自由に動ける通路の確保をしている 安全な環境になるように工夫はしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700023		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム めくもり (東ユニット)		
所在地	愛知県津島市葉苅町字綿掛55番地		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2392700023-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出を多く取り入れたり、ボランティアによるイベントへの参加、同法人内の他施設との連携、又利用者が自分たちで出来る事を取り入れたレクリエーションを活用する等で張りのある日々が過ごせるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

13名が正社員、1名のパートタイマー職も常勤と潤沢な職員配置を誇り、また14名中7名が男子で男女比もバランスよく配されています。お月見やドウ狩りを模した季節の壁画が連なり、玄関から始まりリビングに至るまでクラフト作品満載の中、特に毎月のように催されるイベントを撮影した写真コーナーには目を奪われます。餅つき、恵方巻き、お花見弁当、カラオケ、めくもり喫茶、年賀状や暑中お見舞い制作、お芋パーティー、たこ焼き、蕎麦打ち、うどん打ちとお楽しみ行事は枚挙にいとまがありません。掃出しからウッドデッキづくりに畑で土いじりもでき、奥に進むとフェンス越しに法人託児所の子どもたちとのふれあいもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念だけではなく各ユニットでの目標をあげて実践できるよう努めていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアや、近所にある幼稚園へ訪問し発表会を見学させていただいたりしていたが、現在はコロナウイルスの影響で行わずに日常の散歩で近所の方とあいさつをする程度である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方を通じて認知症に関する理解を深めて頂いていたが、コロナウイルスの感染予防のため現在は行われていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見や案は現場のサービス向上に向け生かしていけるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当と、運営会議以外にも行き来する機会をつくり市とともにサービスの向上に取り組んでいきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を通して、スタッフが拘束について理解しており定期的な情報共有を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士が意見交換し合いながら虐待のないケアに努めている。 一人でのケアが大変な時は応援を呼ぶなどしてストレスをため込まないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会がなく今後、学ぶ機会を増やして行けるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に管理者が対応し利用者を含め家族と話し合いをし理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望などは可能な限り対応し運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや連絡ノートを使用して様々な情報が共有できており、定期的にミーティングを行い意見などを交換している。日常から職員同士のコミュニケーションを行い意見が反映しやすい、風通しのよい職場環境を作りを行うように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士の意見交換もつねに行っており、介護における意識の向上、レベルアップにつなげている。 気持ちよく、やりがいを持って働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、研修は一時中止している。 職員一人一人に役割をつけ責任感、達成感が持てるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流があまりないのでお互いに学び合える機会を増やしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族からの情報提供と本人様からの要望を聞き、入居後不安なく過ごしていただけるように努めている。不安な所があればその都度話し合いにより対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に入居後も本人の意思を考慮し家族からの要望などを聞き、話し合いを行っている。必要に応じて連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からの状況確認と職員間での話し合いをし必要と思われるサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事等をしてお互いが助け合う気持ちで生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態を説明して家族の話聞き利用者にとって何が大切なのか一緒に考え、家族と少しでも過ごせるように話せる場をつくる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ感染予防の為に面会を制限している為に馴染みの人と交流は難しい状態である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを通して利用者同士が関わるようにしている。 コミュニケーションをとることが難しい方は職員が間に入り関わりを持つように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞き出来る限り希望や意見に添うようにしている。また、スタッフ間で情報を共有し希望や意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用から話を聞きこれまでの生活歴を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや生活記録、申し送りノートを活用したり、職員同士の話し合いにより状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートを使った情報共有と定期的なミーティングを開き意見交換している。 介護計画作成時に本人様や家族様の意見も取り入れ現状の状況に即していけるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の生活を記録し、何かの気づきや問題などがあれば申し送りノートに記入をし情報を共有している。 定期的にミーティングを行いケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の要望、スタッフの意見を取り入れ臨機応変な対応をできるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、現状は実践できないが今後落ち着けば実践していきたい。以前は地域のボランティアの方に訪問して頂いたり、近所の幼稚園に訪問したり喫茶店へ行くなどしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回、職員と定期的を受診をして家族からの要望があれば医師に伝えている。状態に変化があれば受診をし家族に連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し利用者の身体状態を見てもらっている。定期の訪問以外にも気になる事があれば看護師に相談し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者や主治医と連絡を取り合い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見て医師や看護師、家族、職員間で話し合い対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の実践力は職員によってばらつきがあり、全スタッフが対応が出来るよう研修を行い実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練や災害マニュアルを作成し対応ができるように努めている。今後、地域との連携も行っていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り、利用者様の性格など把握し利用者様に応じて声掛けの仕方をかえるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を伝えやすい雰囲気を作り、個々に合わせた対応に心掛け意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで調理や掃除などをしてもらい、普段の生活リズムを気にかけるようにしている。入浴もなるべく意向に沿って入浴して頂いている。 職員側のペースにならないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしてもらったり、ご自分で選べる方にはその日の服装を選んでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備など出来る利用者にはスタッフと一緒にして頂き、時には本人に任せ見守りの中対応している。 朝食はパン等好みのものを提供している。 利用者に合わせて食事形態や食器など工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューを提供し利用者の状態によって食べやすい形態に調理している。 十分に食事を摂取できない方には補助食を取り入れたり、小まめに水分を提供するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや、夜間の義歯の消毒を行っている。 口腔ケアは毎食後うながしている 一人で不安がある方にはスタッフが確認し一緒にやっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき個々の排泄パターンを把握して声掛け誘導を行い可能な限りトイレでの排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時、牛乳やバナナをだしている。水補給や乳飲料をとって頂いたり、体操や散歩などで体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ一日おきのペースで入浴されている。希望で夜間入浴されている方もみえる。拒否する方は無理強いはず状況を見てタイミングに合わせたケアをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もご本人の状況に合わせて居室で休息をとって頂いたり、リビングでもくつろぐことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の詳細は生活記録に保管しているのでいつでも確認ができる。すべての薬の把握は出来ないが薬に変更があったときは特に変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が出来る範囲で調理・洗濯・掃除などで役割を持って一緒に行ったり、工作や編み物、カラオケなど好きな事に取り組むよう心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、新型コロナウイルス感染予防の為外出は行っていない。以前は地域の喫茶店やお店に買い物、家族様との外出を行っていた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている 職員が利用者の好みのものを買って届けている。 トラブル防止の為、現金は持っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族と連絡を取ることが出来る。 携帯電話を使い家族と連絡を取っている方もおられる。 年賀状や暑中見舞いも送られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう飾りつけや皆で作った掲示物や写真などを飾っている。 天井飾りや壁面などに季節に合わせたイラスト等を飾り楽しく生活できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごされてくつろげるようソファがあり、車椅子の方も介助でソファに座っていただいている。 気の合う利用者様同士席を近くしたり心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具の使用をしたり、くつろぎやすいような環境の整備や利用者の状況に合わせた部屋のレイアウトをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は安全に配慮しながら、ベッドや家具を使用しやすい位置に配置している。 車椅子でも自由に動ける通路の確保をしている 安全な環境になるように工夫はしている。		